

日本語教育機関教育活動評価

自己点検・評価票

2022年6月

東京コスモ学園

日本語教育機関のための自己点検・評価項目について

評価方法

- ・A:「達成されている」あるいは「適合している」項目。
- ・B:ほぼ達成されているが、不十分なところがあり改善に取り組んでいる項目。
- ・C:達成に向けて努力している項目。
- ・D:「未達成」あるいは「適合していない」項目。

I. 教育の理念・目標

イ) 〈理念・ミッション〉:

本学は、外国人に対する日本語教育を行い、日本の文化、文学、芸術などの研究及び高等教育機関への進学を図り、もって日本語関連教育の発展に寄与することを目的とする。

ロ) 〈教育目標〉:

日本語の学習を通じ、日本の文化や社会への興味・関心をかきたて、その探求や理解を目指す。その達成を経て、新しい視点で母国を、更には自分自身を見つめ直すことができるような気付きの機会を設ける。

学生が自分の新しい可能性を発見し、よりよい未来へと歩んでゆけるようにサポートしてゆく。

評価: B

- ・本学のホームページ上で閲覧可能なので、本学に興味を持った学生に理念を伝え、かつ、講師一同の指針となっている。しかし、在校中の学生が閲覧することはほとんどないため、校内の掲示板にも載せるようにする。

II. 学校運営

[A] 学校の運営体制が日本語教育機関の告示基準を満たしているか。

[A] 学校の理念や目的に沿った運営方針や事業計画が策定されているか。

[A] 学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか。

[A] 組織運営や人事、財務管理に関する規定や意志決定システム、コンプライアンス体制が整備されているか。

[A] 危機管理体制は整備されているか。

[A] 業務の効率化が図られているか。

[A] 職務分掌と責任が明確にされているか

[A] 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう整備されているか。

・定期的に教職員間での報告会を行うことで、教育現場の状況と運営方の実情を共有し、お互いに納得の得られる体制を構築できるように取り組んでいる。

・リモートワーク・学習用アプリケーション“Dingtalk”を用いて、素早く柔軟な意見交換を行っている。

・また、前述のアプリを用いて宿題やテストを実施しており、迅速かつ正確な成績把握も可能である。

III. 教育活動

[A] 教育理念等に沿った教育課程が体系的に編成されているか。

[A] 教育理念・目的が教職員間で共有されているか。

[A] 成績評価や進級、修了の判定基準は明確となっているか、また、適切に運用されているか。

[A] 教員の指導力向上のための取組、教育課程の改善のための取組が行われているか。

[A] 教職員の評価を行っているか。

- ・講師間の連携・情報共有を密にすることで、進捗や達成目標にブレが生じない体制が整っている。
- ・月単位・テスト単位での成績を収集・整理することで、視認性の高い、確実な成績判定を行っている。

IV. 学修成果

【A】 学生の日本語能力の向上が図られているか、適切に把握しているか。

【A】 学生の進路を適切に把握しているか

【B】 進学先、就職先等での状況や、卒業生の社会的評価を把握しているか。

・学習者の希望や能力に合わせて都度聞き取りを行い、クラス分けなど柔軟に対応している。学生の意思を尊重することで、意欲の向上、ひいては日本語能力の向上に努めている。

・卒業生の進路について、各進学者の受験校すべてとその可否をデータベース化し、参照・活用が容易な体制を敷いている。

・進学先との関係を保ち、卒業生の進学先のその後の把握にも努めている。

V. 学生支援

【A】 健康管理や日本での生活指導などへの支援体制が整備されているか。

【A】 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか。

【A】 アルバイトに関する指導及び支援を行っているか。

【A】 受け入れする学生の言語対応が可能な組織になっているか。

【A】 防災や緊急時における体制が整備されているか。

【A】 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか。

【A】 不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取り組みを継続的に行っているか。

【A】 常に最新の学生情報を把握しているか。

・22年度より年一回定期健康診断を校内で実施することになった。

・コロナ禍の只中において、ポスターやメッセージを用いた学生への周知徹底を行い、登校人数や登校時間を管理・制限、共用トイレの使用制限や使用後の教室の徹底した清掃など、細心の注意を払った。

・また、コロナ禍にあって不安を感じる学生に対し、個別チャットでの声掛けを行っているが、十分とは言えない。

・学生の母語に対応可能な職員が常駐し、とくに初中級学生に対する書類関係のサポートや、意見窓口としての役割を担っている。

・入国・在留関連資料の重要性を周知し、期限超過等が発生しないように声掛けを行っている。

VI. 進路支援

【A】 学生に対する学習相談や進路に対する支援体制が整備されているか。

【A】 学生の進路開拓のための取り組みがなされているか。

【A】 進路指導担当者が特定され、指導体制が有効に機能しているか。

【A】 学生の進路希望を把握し、指導担当者間で情報が共有されているか。

【A】 進学、就職等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にあるか。

【A】 入学時からの一貫した進路指導を行っているか。

【A】 EJU、JLPT、J-TEST等の受験指導体制は整っているか。

・講師向け進路説明会への積極的な参加を通じ、常に最新の情報が提示できる状態を維持している。

- ・留学生向けの進路説明会について、グループチャット・個別チャットを通して周知し、積極的に参加するよう呼び掛けしている。
- ・各学生に対し、担当の教員がつき、進学サポートを行っている。

VII. 教育環境

- 【A】学校の施設・設備が十分かつ安全に整備されているか。
- 【A】教材は適切か。
- 【A】学習効率を高めるための環境整備がなされているか。
- 【A】教育、学生数に応じた図書やメディアが整備され、利用できる環境になっているか。
- 【B】授業時間外に自習できるスペースが十分確保されているか。

- ・アナログからデジタルまで過不足ない設備が用意されており、講師のスタイルに応じて適宜活用することができている。
- ・学生の登校状況や希望に応じて授業前後に教室を開放し、自主学習が可能となっている。
- ・コロナ感染対策のため、大人数には対応できない。

VIII. 入学者の募集

- 【A】入学者の募集は適切に行われているか、その際に学校情報は正確に伝えられているか。
- 【A】入学選考は、適切かつ公正な基準に基づき行われているか。
- 【A】適正な定員設定及び在籍者数になっているか。
- 【A】海外の代理店等の行う募集活動が、適切に行われていることを把握しているか。
- 【A】授業料等は適切か。

- ・コロナの影響により、現地募集は難しい状況である。申請、面接等、オンラインで実施している。今後は、インターネットをさらに活用し、各留学センターから充実した情報を伝えられるように取り組んでいきたい。

IX. 財務

- 【A】財務状況は、中長期的に安定しているか。
- 【A】予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。
- 【A】適正な会計監査が実施されているか。

- ・監査役が適切に監査している。
- ・財務基盤は安定しており、半年単位で予算の管理を行っている。

X. 法令遵守

- 【A】出入国管理及び難民認定法令及び各種関係法令等の遵守と適切な運営を行っているか。
- 【A】個人情報保護の対策が取られているか。
- 【A】自己点検の実施と改善及びその公開を適切に行っているか。
- 【A】入国管理局、関係省庁等への届出、報告を遅滞なく行っているか。

- ・法令は遵守している。
- ・法令遵守の徹底について、校長もしくは役員が担当となり定期会議でさらなる意識の向上をはかる。

I. 地域貢献・社会貢献

【D】日本語教育機関の資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献、学生のボランティア活動への支援、公開講座等の実施などの取組を行っているか。

・コロナ禍でオンライン授業を実施せざるを得ない状況において、ボランティア活動を行うことは困難であった。今後、状況を見て、積極的な参加を呼び掛けていきたい。